

ビーンボウリング

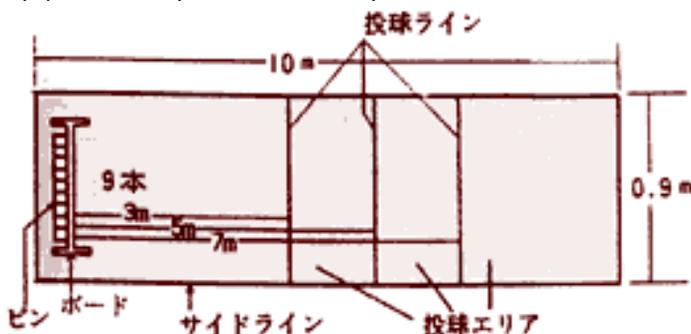
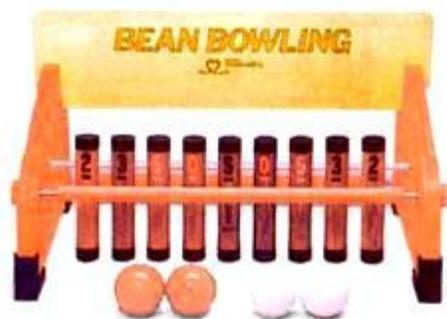
ピンを倒さずに、反転させて点数を競う簡易ボウリング。スコットランドで生まれたボウリングは、900年の歴史があります。

当初は、芝生の上にボールをころがして、ダイヤモンド型に並べたピンを倒すのを競っていました。やがてフランス、ドイツ、オランダを経てアメリカに輸入され、ピンの並べ方も正三角形となり、ルールも整備されて、広く普及しました。ビーンボウリングは、現在の室内ゲームで大型化されたボウリングを、ピン配列から工夫(横列)して、簡便化したものです。名の通り、ピンにボールが当たると豆がはじけるようになっていきます。

ボールを投げるコントロールやバランスを競うゲームで、体格や体力に関係なく、老若男女誰でも楽しめることから注目が集まっています。

●用具

ピンセット、ボール…4(赤・白各2)、レール(0.9m×10m)



●場所

0.9メートル×10メートルのレーン

●人数

シングル(計2名)、ダブルス(計4名)、10名(5対5)の団体戦も可能

●ボールの転がし方

ボールは、決められた投球ラインと一つ後ろの投球ラインの間(投球エリア)で投球動作し、投球する。

バックスイングと同時に左足を踏み出し(左ききの人は右足)腰の安定を保って踏み出した足にそってボールを転がす。

(注)転がした後、両足とも投球ラインから出てはいけない。

●ゲームの進め方

室内ボウリングとほぼ同じ。プレイヤーは、ボールを転がして、9本のピンに当て、反転したピン数を得点とする。ただし、反転後リバウンドし、元にもどったピンは得点として加算されない(ガーター)。

まず、ジャンケンによって先攻(赤)後攻(白)を決め、主審のコールにより、プレー開始。プレイヤーは、1フレーム2球(同色球)ずつ投球する。

(つづき)

投球ラインからピンまでの長さは3m、5m、7mで、この3つの投球ラインから3フレームずつ、すなわち9フレーム投げて1回のゲームとする。

シングルス、ダブルスとも同様であるが、申し合わせ事項をもうけて9フレームとも投球距離を等距離にしてもかまわない。

●勝敗の決定

9本のピンのうち、中央にある無表示のピンは、ストライクピンと呼び、最初の投球で反転した場合は、20点(ストライク)となる。また2投目でストライクピンを反転した場合はスペアとなり、10点の得点になる。

したがって、1投目にストライクピンが反転し、2投目で5の表示ピンが反転した場合の1フレームの得点は、25点となる。

ストライクやスペアをとっても、次のフレームには加算されず1フレームずつの得点を合計して競い合うところが、一般のボウリングとは異なるところである。

●反則(以下の場合、反則(ファール)となり、取得した得点は無効)

1. 投球動作中に投球ラインを踏んだり、越えた場合。
 2. 転がした後、足が投球ラインから出てしまった場合。ただし、投球ラインから両手が出ていてもかまわない。
 3. 投球中、手から離れレーンに落ちたボールが、投球エリア外だった場合。
- (注)オンラインもファールとみなす。

●審判員(主審1名、副審1名)

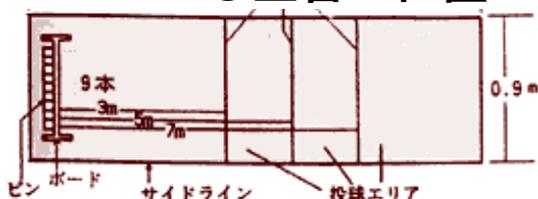
【主審】プレーヤーの右、3mの投球ライン付近に位置し、反則のジャッジや副審からうけた有効得点をスコアカードに記入するとともに、ゲームがスムーズに楽しく、気持ちよく進行できるように責任を持って運営することを、主な任務とする。

【副審】プレーヤーの左、ボードの横に位置し、ゲームの進行中、反則やピンの影響によってボード上に変化が生じたときは、速やかに元の状態に戻し、安全を確認して、主審に試合進行を告げる。

また、有効得点を逐次主審に報告する。

(注)試合中、副審以外はピンに触れることはできない。

●主審の位置



●副審の位置

ピン・ボウリング 投球距離	3 m			5 m			7 m			合計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
使用ボール [赤] 1投目	2	3	5	5	2	8	5			100
2投目	3	2	5	0	0	0				
3投目	5	22	13	10	15	2	8	20	5	

☒ ストライク
20点

☐ スペア
10点

☐ ファールマーク

●スコアカードの使い方・事例

複数のピンが反転した場合は、反転したピン全てが得点となる。1投目で反転したピンはそのまま残り、2投目を投げる。